



(1) 横浜キャンパスに集結した理工系5学部

- 理学部
 - 理学科
 - ・数学コース ・物理コース ・化学コース
 - ・生物コース ・地球環境科学コース
 - ・総合理学コース
- 工学部
 - 機械工学科 / 電気電子情報工学科
 - 経営工学科 / 応用物理学科
- 建築学部
 - 建築学科
 - ・建築学系 ・都市生活学系
- 化学生命学部
 - 応用化学科 / 生命機能学科
- 情報学部
 - 計算機科学科 / システム数理学科 / 先端情報領域プログラム

(2) 近年の主な学部学科再編

- 2020年4月
横浜キャンパスに国際日本学部を新設
- 2021年4月
みなとみらいキャンパスを新設
経営学部、外国語学部、国際日本学部が
みなとみらいキャンパスに移転
- 2022年4月
横浜キャンパスに建築学部を新設
- 2023年4月
横浜キャンパスに情報学部と化学生命学部
を新設し、理学部が湘南ひらつかキャン
パスから移転

最大880万円を給付。返還不要の奨学金で4年間学ぶ。

向学心あふれる学生を
支援する給費生制度

給費生制度は1933年から実施している神奈川大学独自の伝統ある奨学金制度です。広く全国から優秀な人材を募り、その才能を育成することを目的としています。試験は例年12月下旬に実施しています。一般入試と同様の3科目型で行われ、推薦書不要、併願可能です。給費生として入学すると、返還不要の奨学金(4年間最大880万円)を給付します。

- 試験日: 2024年12月22日(日)
- 合格発表日: 2025年1月12日(日)
- ※インターネット出願、郵送消印有効
- ＜昨年度参考＞
- 志願者 8,786人
- 給費生合格者 279人
- 一般入試免除合格者 3,248人

給費生試験 [全学部全学科]

- 4年間で最大 880 万円を給付※
 - ・入学金相当額を入学初年度に給付
 - 法・経済・人間科学部は年額 100 万円、経営・外国語・国際日本学部は年額 110 万円、理・工・建築・化学生命・情報学部は年額 145 万円を原則 4 年間給付※
 - ・自宅外通学者には年間 70 万円の生活援助金を原則 4 年間給付※ ※毎年継続審査あり
- 全国 23 会場で実施！
 - 横浜 (本学) ・札幌 ・秋田 ・仙台 ・郡山 ・新潟 ・富山 ・長野 ・松本 ・甲府 ・高崎 ・宇都宮 ・水戸 ・さいたま ・千葉 ・沼津 ・静岡 ・名古屋 ・大阪 ・松山 ・広島 ・福岡 ・那覇
- 2 種類の合格
 - ＜給費生合格＞＜一般入試免除合格＞
 - 給費生として採用されなかった場合でも、一般入試合格者と同等もしくはそれ以上の学力を有すると認められた受験生は、一般入試を免除して入学が許可されます。
- 留学費用の補助など、入学後のサポートも充実



おぐまこと
小原 誠学長
1978年筑波大学第一学群人文文学類卒業。85年同大学大学院博士課程歴史人類学研究科単位取得退学。筑波大学博士(文学)。専門は民俗学、文化人類学。沖縄国際大学、神奈川大学教授などを経て2022年より現職。

2024年に創立96周年を迎えた神奈川大学。創設者の米田吉盛が「教育は人を造るにあり」と説き、「中正堅実」な若者を世に送り出すことを教育理念とする横浜学院を1928年に横浜・桜木町に開学して以来、「人を造る」教育を実践しています。

近年は、みなとみらいキャンパスの新設や、学部学科の新設・再編といった改革を進め、全11学部を擁する総合大学へと発展しています。2022年の建築学部新設に続き、2023年4月には横浜キャンパスに情報学部と化学生命学部が新設され、理学部も湘南ひらつかキャンパスから移転、理工系5学部全てが横浜キャンパスに集結⁽¹⁾しました。

2028年に迎える創立100周年と、その先の未来に向けた神奈川大学の取り組みを紹介します。

神奈川大学

〒221-8624 神奈川県横浜市神奈川区六角橋3-26-1 入試センター TEL 045-481-5857 <https://www.kanagawa-u.ac.jp/>

「教育は人を造るにあり」 人との出会いが地域を変え、 世界を変え、 学生自身の未来を変えていく

良識ある判断力と実践力で 新たな価値を創造する

神奈川大学は「人を造る」という建学の精神のもと、開学以来「中正堅実」な人材の輩出を重視してきました。偏った思想を持たず、真実に基づいた考えを堅実に育むための教育方針として掲げているのは「質実剛健」と「積極進取」です。「質実剛健」とは伝統や古典を尊重し、良識を重んじ、堅固な思想をもって正義を貫くことです。「積極進取」とは自由な発想で自ら新しい物事に取り組みむことであり、困難な物事に対しても積極的に挑戦し、進歩・進化を求めていくこと。これらの現代的な解釈について、小原学長は次のように話します。

「質実剛健は、基本的な学力を身につけた上で、体系的に専門性を高めていくこと。積極進取は、産学連携教育などを通して社会に対する理解を深め、良識ある判断力と実践力を育むことです。本学が目指す『中正堅実』とは、これらを胸に自主的かつ主体的に新たな価値を創造する

ための資質といえます。」
なお、この中正堅実で向学心のある若者が安心して学べる環境を提供するとともに、金銭的な理由が向学心の妨げにならないようにと創設されたのが、1933年から現在に続く「給費生制度」です。

データサイエンス教育を 全学的に推進

神奈川大学では、学部学科の再編が進み、2023年には化学生命学部と情報学部が新設されました。化学生命学部は「応用化学科」と「生命機能学科」の2学科。エネルギーや素材などの応用化学分野から遺伝子、タンパク質、動植物生理学といった生命科学分野まで、充実した実験環境のもと、分野融合的に学修します。情報学部は「計算機科学科」「システム数理学科」「先端情報領域プログラム」の2学科1プログラム。理学と工学を横断する広い教養と確かな専門性を養います。

また、データサイエンス教育を全学的に推進し、2022年から「共通教養データサイエンスプログラム」を提供しています。文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」の認定を受けた「リテラシーレベル」は、ビッグデータの活用やAI技術などに関する基礎知識を修得する「教養データサイエンス」と、情報リテラシーの基礎を身につける1年次前期の科目「FY

した「株式会社WellFed(ウェルフェド)」です。WellFedは日本の給食に注目し、AI・数理最適化技術を活用した栄養士の過重労働の解消・スキルアップ支援や、AI技術による需要予測で食品ロスの削減を目指すなど、食と教育の観点から課題解決に取り組んでいます。認定を受けたベンチャー企業は、大学の施設・設備が利用できるほか、大学が所有する特許等知的財産権の使用に関する優遇措置、企業の紹介などの支援を受けることができます。

さらに、伝統の実学教育である「体験型研修」では、文化・スポーツ体験、自然体験、地域貢献・社会体験など、さまざまな研修プログラムが提供されています。実際に現地に足を運んで実物に触れ、多様な人々と協力しながら行動する体験が一人ひとりの好奇心を高め、人間的な成長と実践的能力を促します。

また、グローバル人材の育成にも力を入れています。経営学部では「国際教育プログラム」を展開し、国際ビジネスに必要なスキルを身につける「国際ビジネスコミュニケーション(IBC)プログラム」をはじめ、8つの言語から選べる語学学修、日本にいながら英語で経営学を学べる英語開講科目(EMI)や各種留学プログラムなどを用意しています。IBCプログラムでは、アルゼンチンのメンドーサ大学とのCOIL授業を実施。英語での対話や異文化を知る経験を通して、学生の語

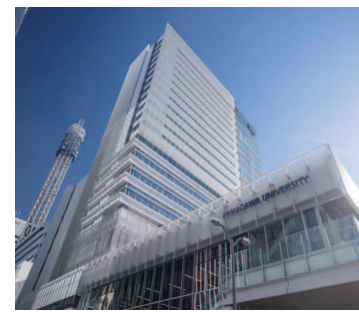
学学習や留学への意欲を高める機会となっています。
小原学長は、こうした日々の学びの中で人と人のつながりを創出することが、学生を成長させるのだと言います。「教育とは、学生に知識を授けることだけではなく、学生が求める教育にはなりません。学生一人ひとりに寄り添うからこそ、大学は学生の人間形成に寄与できるのであり、対話の積み重ねこそが、教育力向上の原動力なのです」

国際都市・横浜で学びを深め 新たな自分に出会ってほしい

神奈川大学におけるコミュニケーション重視の方針は、学内だけでなくどまりません。国際都市・横浜にはグローバル企業が集まり、歴史的建造物の官公庁や美術館などの文化施設も点在しています。この恵まれた立地を生かし、横浜エリア全体を「街ごとキャンパス」として捉えた上で、多くの人と出会い、コミュニケーションを重ねることを重視。学びの宝庫である横浜で探究を深め、社会の課題解決に貢献していこうという考えです。



2023年4月に理工系学部が集結した横浜キャンパス



2021年に開設したみなとみらいキャンパス

S (First Year Seminar)」の2科目が設けられ、両方の単位を取得することで同プログラムの修了証明となる「オープンバッジ」が与えられます。2024年度からは「応用基礎レベル」もスタート。数理・データサイエンス・AIの基礎と応用を学ぶ「教養データサイエンス」と「教養デジタルテクノロジー」、AI技術の実践を学ぶ「AIの実践と社会への展開」データサイエンスのための数学基礎を学ぶ「統計学」の4科目を用意し、2025年度中の認定取得を目指しています。

人とのつながりを創出する学びが 学生を成長させる

「教育は人を造る」という理念は、学生の意欲や目標を後押しする多様な支援にも受け継がれています。2021年12月には、大学での研究・技術を社会実装し、よりよい社会を実現するため「大学発ベンチャー認定制度」を発足。その第一号企業に選ばれたのは、工学部経営工学科片桐研究室の学生3名が起業

に向けた生涯学習エクステンション講座など、社会連携事業を展開する予定です。
また2024年7月には、学生と横浜エリアの高校生が連携し、横浜の将来を考えるイベントとして「かながわユースフォーラム2024『育てよう・未来への種』」が開催されました。こうした活動を含め、神奈川大学での学びについて小原学長は次のように話します。

「学生に期待したいのは、横浜という地域を通して日本を学び、世界を学ぶことです。その過程で課題解決力を身につけて、さまざまなグローバル課題に対して『積極進取』の心構えをもってアプローチできる人材へと成長してほしいと思います。私は『横浜から未来を変える』というキャッチフレーズを使用していますが、これは日本社会やグローバル社会の未来を変えるとともに、学生が自分の未来を変えていくことも意味しています。そのためには人との出会いが大切です。本学で『可能性に満ちあふれた自分』にも出会ってくれることを願っています」